

環境省「令和6年度 ESG 地域金融の普及・促進事業」における 「地域活性化に資する ESG 要素の展開と産学官連携による支援体制構築」について

浜松いわた信用金庫（理事長 高柳 裕久、以下「当金庫」）は、環境省主催の「令和6年度 ESG 地域金融の普及・促進事業」に採択され、ESG の側面から地域経済を支えるべく地域資源の活用と循環型経済の推進に取り組んでいます。今般、環境省地域金融実践ガイドならびに事例集に掲載されましたのでお知らせします。

今後も、当金庫は「魅力あふれる、持続可能な地域経済・社会」を目指すべく地域の将来像として地域の発展に貢献してまいります。

<取組のポイント>

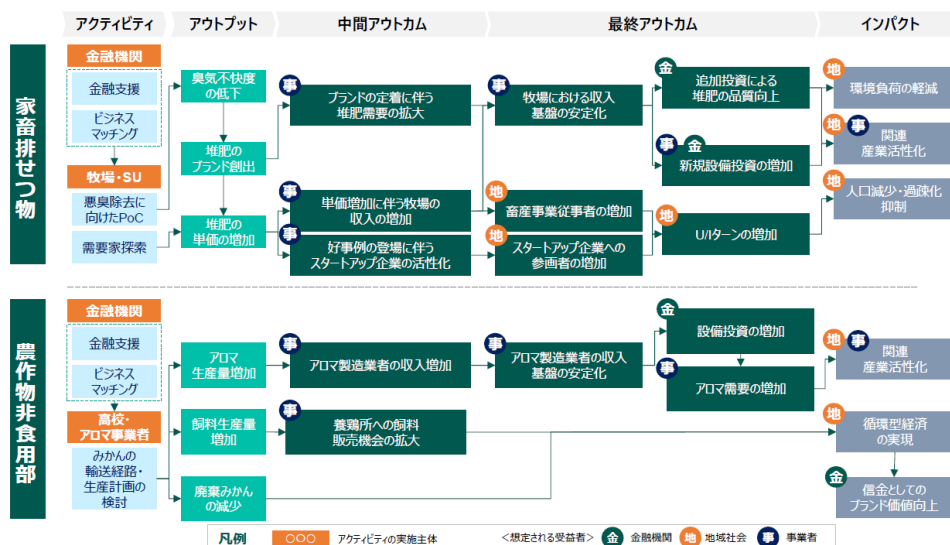
1. バイオマス資源として活用する地域資源の特定
 - ・静岡県や浜松市が発表しているバイオマスに関する利用計画やバイオマスの資源候補に関連する各種統計情報に基づき、取組の中で利用する地域資源を特定
2. 地域資源を利用したバイオマスサプライチェーン案の検討
 - ・当金庫がもつネットワークからの情報や企業・他自治体の事例をインプットとして、地域資源を活用したバイオマスサプライチェーン案を検討
 - ・サプライチェーン案の実現に当たって、関係プレーヤーへのヒアリングを通して課題やボトルネックの整理を実施
3. バイオマスサプライチェーンの実現がもたらす効果と実現に必要な活動の整理
 - ・バイオマスサプライチェーンが地域社会にもたらす効果とその実現に向けた活動内容をロジックモデルやロードマップを活用し、整理

-事例03-浜松磐田信用金庫

サプライチェーン構築により地域にもたらされるインパクト



■ 検討した案がもたらすインパクトを考える上では、ロジックモデルの作成が有効。浜松磐田信用金庫では、「家畜排せつ物」・「農作物非食用部」それぞれのサプライチェーンが実現した場合の地域への効果（インパクト）を以下の通り整理した。



※詳細は環境省地域金融実践ガイドならびに事例集をご覧ください

URL : <https://www.env.go.jp/content/000302782.pdf>

ESG地域金融実践ガイド

別添資料：事例集【令和6年度】

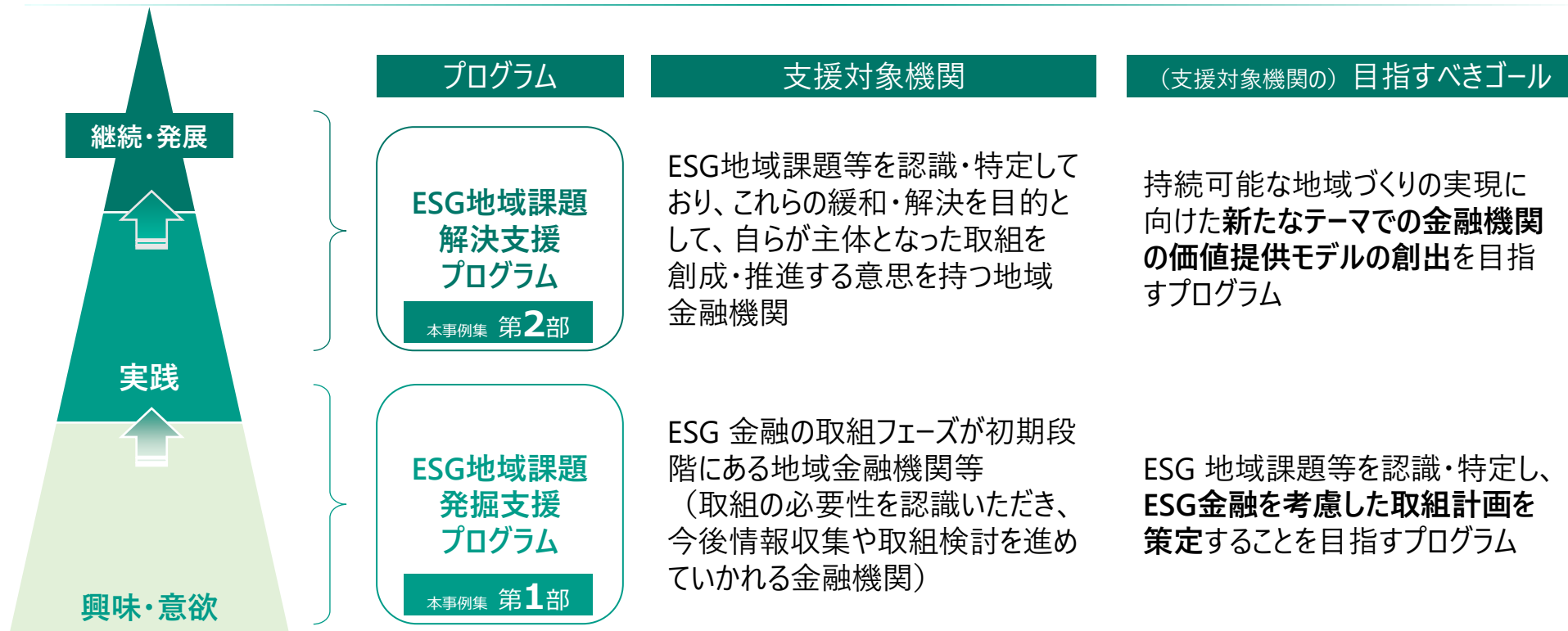
2025年3月

環境省 大臣官房 環境経済課 環境金融推進室

はじめに

- 本事業は、地域金融機関等における環境・社会に対するインパクトの創出、地域の持続可能性の向上等に資する取組を支援することを目的に、ESG地域金融を实践する地域金融機関のモデル的な取組を支援する「ESG地域課題解決支援プログラム」と、地域で向き合うべき課題の発掘を支援する「ESG地域課題発掘支援プログラム」で構成されている。
- 本事例集は、両プログラムの支援を通じて得られたエッセンスをとりまとめたものである。第1部では「ESG地域課題発掘支援プログラム」において整理された地域課題発掘から金融機関支援策検討の流れ及び令和6年度採択案件の取組事例をとりまとめている。第2部では、「ESG地域課題解決支援プログラム」における令和6年度採択案件の取組事例、過年度事業で採択した一部案件を対象に実施したフォローアップ調査にて確認された現在の取組状況について取りまとめている。

各プログラムの位置づけ



第2部 ESG地域課題解決支援プログラム 取組事例

1 令和6年度ESG地域課題解決支援プログラム 採択案件

- | | | |
|---|-------------------|-----|
| 1 | 福井銀行・福邦銀行/秋田県信用組合 | p36 |
| 2 | 静岡銀行 | p56 |
| 3 | 浜松磐田信用金庫 | p69 |
| 4 | 岐阜信用金庫 | p80 |

2 過去年度採択案件（～令和5年度） フォローアップ事例

- | | | |
|---|----------|------|
| 1 | 北都銀行 | p97 |
| 2 | 群馬銀行 | p100 |
| 3 | 玉島信用金庫 | p103 |
| 4 | 奈良中央信用金庫 | p106 |

第 2 部

ESG地域課題解決支援プログラム 取組事例

地域活性化に資するESG要素の展開と 産学官連携による支援体制構築

-事例03-浜松磐田信用金庫

背景・ 目的

- 浜松磐田信用金庫は自治体・地元の建設業者等と連携し、環境・経済・社会の観点で地域の輪を広げてきた。
- 静岡県や浜松市はバイオマス資源を有効活用し、地域社会を活性化させることを目指しているが、その実現に向けては地域の多様なプレイヤーの協力が必要となる。
- 地域金融機関が地域に持つ強固なネットワークを活用し、静岡県・浜松市が取り組むバイオマス事業への貢献を通して、地域のつながりの拡大を目指す。



取組のPoint

1 バイオマス資源として活用する地域資源の特定

- 静岡県や浜松市が発表しているバイオマスに関する利用計画やバイオマスの資源候補に関連する各種統計情報に基づき、取組の中で利用する地域資源を特定

2 地域資源を利用したバイオマスサプライチェーン案の検討

- 浜松磐田信用金庫がもつネットワークからの情報や企業・他自治体の事例をインプットとして、地域資源を活用したバイオマスサプライチェーン案を検討
- サプライチェーン案の実現に当たって、関係プレイヤーへのヒアリングを通して課題やボトルネックの整理を実施

3 バイオマスサプライチェーンの実現がもたらす効果と実現に必要な活動の整理

- バイオマスサプライチェーンが地域社会にもたらす効果とその実現に向けた活動内容をロジックモデルやロードマップを活用し、整理

ESG地域金融に取り組んだ経緯・目指すべき地域の将来像

担当者コメント

浜松磐田信用金庫

SDGs推進部部長

竹内 嘉邦 氏

浜松磐田信用金庫

SDGs推進部 SDGs企画課課長

久米 雅之 氏

【令和6年度持続可能な社会形成に向けたESG地域金融の普及・促進事業の申請経緯について】

・当金庫は、「魅力あふれる、持続可能な地域経済・社会」実現に向けた「原動力」となることを長期ビジョンとして掲げ、2024年度より第2次中期経営計画「Run to the Future～未来への挑戦～」をスタートさせており、地域社会の持続可能な発展を目指しています。

・このような中で当金庫は、ESGの側面から地域経済を支えるため、地域資源の有効活用と循環型経済の推進が必要と考えました。また、当金庫を中心とした地域金融機関としての信頼性向上と、地域企業や団体との連携強化が重要でした。バイオマス資源の高付加価値化や技術開発を進めることで、新たな雇用創出や地域産業の活性化を図り、さらにはESG評価の向上を通じて企業価値を高めることを目指しました。これにより、地域全体の持続可能な未来を実現するために、本事業への参加が最適であると判断しました。

【地域に与える影響・価値として期待していること】

・地域資源の有効活用を通じて循環型経済を推進し、環境負荷の低減と持続可能な資源管理の実現が期待されます。家畜排せつ物や農業廃棄物の高付加価値化により、新たな産業が創出され、地域経済活性化と雇用創出につながります。また、技術革新を通じて、ローカルなイノベーションが促進され、地域の競争力が向上します。さらに、地域住民や企業のESG意識が高まることで、環境や社会貢献に対する意識が浸透し、より持続可能な地域社会の形成が進むと考えています。

・今回、申請にあたっては静岡県のバイオマス活用に関する計画を参考に、地域資源の候補を網羅的に洗い出し「静岡県・浜松市としての課題」「静岡県における利活用の現状」・「当金庫における地域資源に関連する取引先との関わり」を評価基準としてサプライチェーン有望案を位置付けました。サプライチェーン案の実現により「循環型社会の推進」、「既存の循環型社会ビジネスモデルの高付加価値化」につながる可能性があります。

【実現したい「持続可能な地域」の将来像】

・静岡県、浜松市それぞれの自治体が目指すバイオマス資源を活用した循環型社会への取組と、当金庫の目指す将来像「魅力あふれる、持続可能な地域経済・社会」と合致しており、当金庫が地域に有する強固なネットワークを活用し地域の持続的発展に貢献してまいります。

・実現したい「持続可能な地域」の将来像は、環境、経済、社会の調和が取れた地域社会です。地域資源を最大限に活用し、循環型経済を確立することで新たな産業と雇用を創出します。住民や企業が環境保護や社会貢献に積極的に取り組み、地域全体で持続可能な生活スタイルを実現します。また、多様なステークホルダーが連携し、地域課題を共同で解決することで、活力と豊かさを持続するコミュニティを目指します。

取組実施の経緯

アプローチする地域の課題

- 静岡県は、「静岡県バイオマス活用推進計画」を策定し、循環型社会の実現を目指している。
- 浜松磐田信金の地元である浜松市も、「多様なバイオマス資源を活用した、先進的かつ経済的な循環利活用モデルを構築することで、地域の新たな雇用創出や新たな産業創出、関連産業活性化につなげていく」ことを地域の将来像として掲げている。
- ただし、県・市の構想を実現し、バイオマス事業を発展させるためには、地域資源の高付加価値化を図ると共に、資源の循環利用に向けた原料供給元、運搬・加工業者、需要家、地域関係者など、多様なプレーヤーの理解と協力が課題となる。
- 浜松磐田信用金庫は、自治体・企業といったプレーヤーを結び付け、これまでも地域の輪の拡大を通して地域経済の活性化に取り組んできた。本事業では、バイオマスを題材に地域の輪の更なる拡大を目指す。

地域課題に着目した背景

浜松磐田信用金庫が持つ強固なネットワークを生かした地域課題への貢献

- ✓ 浜松市・磐田市を始めとする静岡県西部において、自治体や中小企業等との強固なネットワークを構築している。
- ✓ 地域にもつ強固なネットワークが、多様なステークホルダーによる連携が重要となるバイオマス事業の推進に資すると見られる。

地域に対するインパクトの創出

- ✓ バイオマスを基軸に新しいビジネスを創出することが出来れば、地域の環境改善に留まらず、雇用機会の創出や地域企業の収益機会の獲得など、多様なインパクトが期待できる。

金融機関が取り組む必要性

新たなソリューション提供機会の獲得

- ✓ この活動を通してバイオマスに関連した新たなビジネスの創出を行うことができれば、その実現・高度化に向けて、金融機関としてソリューションの提供機会を得ることができる。

信用金庫のブランド価値向上

- ✓ 循環型社会に向けた取組を信用金庫として推進し、金融機関のブランド価値を向上させることで、地域社会や顧客からの信頼を強化する。

ESG金融の実践内容

実践の流れ	実践のポイント	概要
<p>活用する地域資源候補の洗い出し</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自治体がバイオマス利用の観点で抱えている課題、現在の利用状況、関連プレイヤーと浜松磐田信用金庫の密接度に鑑みて、この取組で活用する地域資源の候補を洗い出した 	<ul style="list-style-type: none"> 静岡県や浜松市が公表しているバイオマス活用計画や各種統計データ等を活用し、本事業において活用する検討対象とする地域資源の洗い出しを実施した
<p>サプライチェーン仮説の検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> 浜松磐田信用金庫が有するネットワークからの情報、自治体・企業の取組事例をインプットに、地域資源を活用したサプライチェーン案を検討した 	<ul style="list-style-type: none"> 前段の洗い出しプロセスの中で検討対象となったそれぞれの地域資源について、サプライチェーン仮説の検討・構築を行った
<p>Point 地域資源の活用に向けたボトルネックの整理</p> <ul style="list-style-type: none"> 洗い出した地域資源のうち、今後におけるサプライチェーン案の構築・検討に結び付かなかった地域資源について、その理由や課題の整理を行った。 		
<p>サプライチェーン案の実現可能性の検証</p>	<p>浜松磐田信用金庫の直接の取引先だけでなく、自治体など、多様なプレイヤーに対してヒアリングを行い、実現可能性の検証を実施した</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源に関連するプレイヤーに対して地域資源のボリューム、地域資源の活用可能性、金融機関が各地域資源を活用する意義の観点でヒアリングを行い、それぞれのサプライチェーン案の実現可能性を検証した
<p>サプライチェーン案がもたらす裨益と今後の取組事項の整理</p>	<p>本事業はバイオマスに関連した取組であるため、地域社会への裨益については、循環型社会実現への貢献、という観点を盛り込んだ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 検証プロセスを経て、具体的に今後検討することになったサプライチェーン案がもたらす地域社会への影響やサプライチェーン案の実現に向けた取り組むべき事項をロジックモデルやロードマップを活用して整理した

地域資源の絞り込みからサプライチェーン案構築までの検討プロセス

- 自治体等が公表しているデータを活用し、地域資源の全体像を掴むことが重要。現在の利用率や利活用に向けた課題等を評価軸として、検討を行う地域資源の候補を洗い出す。
- 候補とした地域資源について、金融機関の構想や企業・自治体の取組事例を参考に、サプライチェーン仮説を立てる。
- 地域資源に関する取引先や自治体に、地域資源の量や利活用の余地等の観点でヒアリングを行い、仮説を検証する。

地域資源の絞り込みからサプライチェーン案の構築までの検討プロセス

具体的な検討プロセス

浜松磐田信金としての取組内容

1

地域資源候補の洗い出し

- 自治体等が公表しているバイオマスに関するデータ等を活用し、地域資源を網羅的に洗い出す。
- 「バイオマス資源としての利活用の現状」や「利活用に向けた課題」等を評価軸として、検討対象とする地域資源候補を決める。

- 静岡県計画に鑑み、地域資源を洗い出した。
- 「地域資源の利活用の現状」、「県・浜松市の課題」、「地域資源に関連するプレイヤーとの密接度」を評価軸として、地域資源を絞り込んだ。

2

サプライチェーン仮説の構築

- 検討対象とした地域資源について、「金融機関としての構想」や「企業・自治体の取組事例」等をインプットに、サプライチェーン仮説を立てる。

- 「浜松磐田信金の構想」・「浜松市の企業の取組事例」・「自治体の取組事例」・「有識者からのコメント」の4点をインプットに、①で検討対象とした地域資源について、仮説を構築した。

3

サプライチェーン仮説の検証

- 地域資源に関連する取引先や自治体に、「資源のボリューム」や「利活用の余地」等の観点でヒアリングを行い、仮説の実現可能性を検証する。
- ヒアリング先は、関連プレイヤーとの密接度や地域資源の性質に応じて選定する。

- 左記に加え、「金融機関の取組意義」の観点でもヒアリングし、仮説の実現可能性を検証した。
- 浜松磐田信金として特に密接な関係をもつプレイヤーや森林分野については、エリアの全体感を把握する自治体の担当課にヒアリングをした。

活用する地域資源候補の洗い出し

- 以下に示す3つの軸で評価を行い、「家畜排せつ物」・「建設発生木材」・「林地残材」・「農作物非食用部」についてサプライチェーン仮説を検討した。

活用する地域資源の洗い出しの結果

 今後の検討対象とする地域資源

区分	利活用率	県、及び浜松市の利活用の観点での課題	取引先との接触難易度
家畜排せつ物	△	品質の安定化や堆肥の流通促進・需要拡大といった課題が存在する。	取引先に肉用牛の牧場が存在し、当該牧場との検討が可能と考えられる。
食用廃棄物・生ごみ	△	事業所等から排出される生ごみも一括してバイオマス活用する仕組みが必要。	-
廃食用油	△	利活用方法の検討が具体的な課題として挙げられている。	-
製材工場等残材	△	利活用の観点での課題は見られない。	-
建設発生木材	△	再資源化や材料・燃料としての利用拡大が必要。	取引先に建設事業者が存在し、当該事業者との検討が可能と考えられる。
黒液	△	利活用の観点での課題は見られない。	-
下水汚泥	△	肥料化・エネルギー利用の拡大や下水汚泥を効率的に処理、バイオマス活用する仕組みが必要。	-
し尿処理施設から発生する汚泥	○	埋め立て処理以外の利活用の拡大が必要。	-
林地残材（間伐材）	○	低コスト生産システムによる利用間伐の促進や需要の創出等により、林業の経済性向上が必要。	取引先の建設事業者と間伐材を活用したバイオマス事業案について検討した実績があり。
農作物非食用部	-	堆肥やエネルギー利用における安定供給実現等が必要。	取引先にみかんを活用した芳香剤製造業者が存在し、当該事業者との検討が可能と考えられる。

・静岡県として、利活用率が概ね70%以上の地域資源を△、それ以下の地域資源を○と評価した。農作物非食用部は利活用率の公表はなし。

サプライチェーン仮説の検討

- 洗い出しの結果、「家畜排せつ物（肉用牛）」・「農作物非食用部（みかん）」・「建設発生木材」・「林地残材（間伐材）」が具体的なサプライチェーン案の検討を行う地域資源候補となった。
- 上記の地域資源それぞれについて、「浜松磐田信用金庫が有するネットワークからの情報」・「自治体・企業の取組例」といった情報をインプットに、サプライチェーン案を検討した。

地域資源を活用したサプライチェーン（SC）案

タイプ	家畜排せつ物	農作物非食用部	建設発生木材	林地残材
インプット	<ul style="list-style-type: none"> ・浜松磐田信用金庫の有するネットワークからの情報 ・有識者からのコメント 	<ul style="list-style-type: none"> ・浜松磐田信用金庫の有するネットワークからの情報 	<ul style="list-style-type: none"> ・他企業の取組事例 	<ul style="list-style-type: none"> ・他自治体の取組事例
SC案概要	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題である牧場から発生する悪臭を除去。 ・そういった活動に取り組むことで、同牧場が配付している堆肥の付加価値化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校で廃棄されているみかんからアロマを製造する。 ・アロマ製造で利用したみかんの残渣は飼料として二次利用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発生した木材から木質チップを作成し、需要家に提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・林地の残材からペレットを作成し、そのペレットを活用して発電を行う。
イメージ	 <pre> graph TD StartUp[スタートアップ] -- 悪臭を除去 --> Farm[牧場] Farm -- 悪臭除去に取り組む 牧場から堆肥提供 --> Needer[需要家] Needer -- これまで以上の資金流入 --> StartUp </pre>	 <pre> graph TD HighSchool[高校] -- 廃棄みかん提供 --> Aroma[Aroma業者] Aroma -- アロマ提供 --> Needer[需要家] Aroma -- 残渣から作成した飼料提供 --> Poultry[養鶏所] </pre>	 <pre> graph TD Builder[建設業者] -- 型枠廃材の提供 --> ChipMaker[チップ製造業者] ChipMaker -- 木質チップの提供 --> Needer[需要家] </pre>	 <pre> graph TD Forestry[森林組合] -- 原木提供 --> PelletMaker[ペレット業者] PelletMaker -- ペレット提供 --> PowerPlant[発電所] PowerPlant -- 売電 --> PowerCo[電力会社] </pre>

サプライチェーン仮説の検証

- 構想したサプライチェーン案の実現可能性を検証するため、関連プレーヤーに対して、「地域資源のボリューム」・「地域資源の活用余地」・「金融機関としての参入意義・余地」の観点でヒアリングを実施した。
- その結果、「家畜排せつ物」と「農作物非食用部」を今後具体的な検討を行う地域資源とした。

サプライチェーン仮説の検証結果

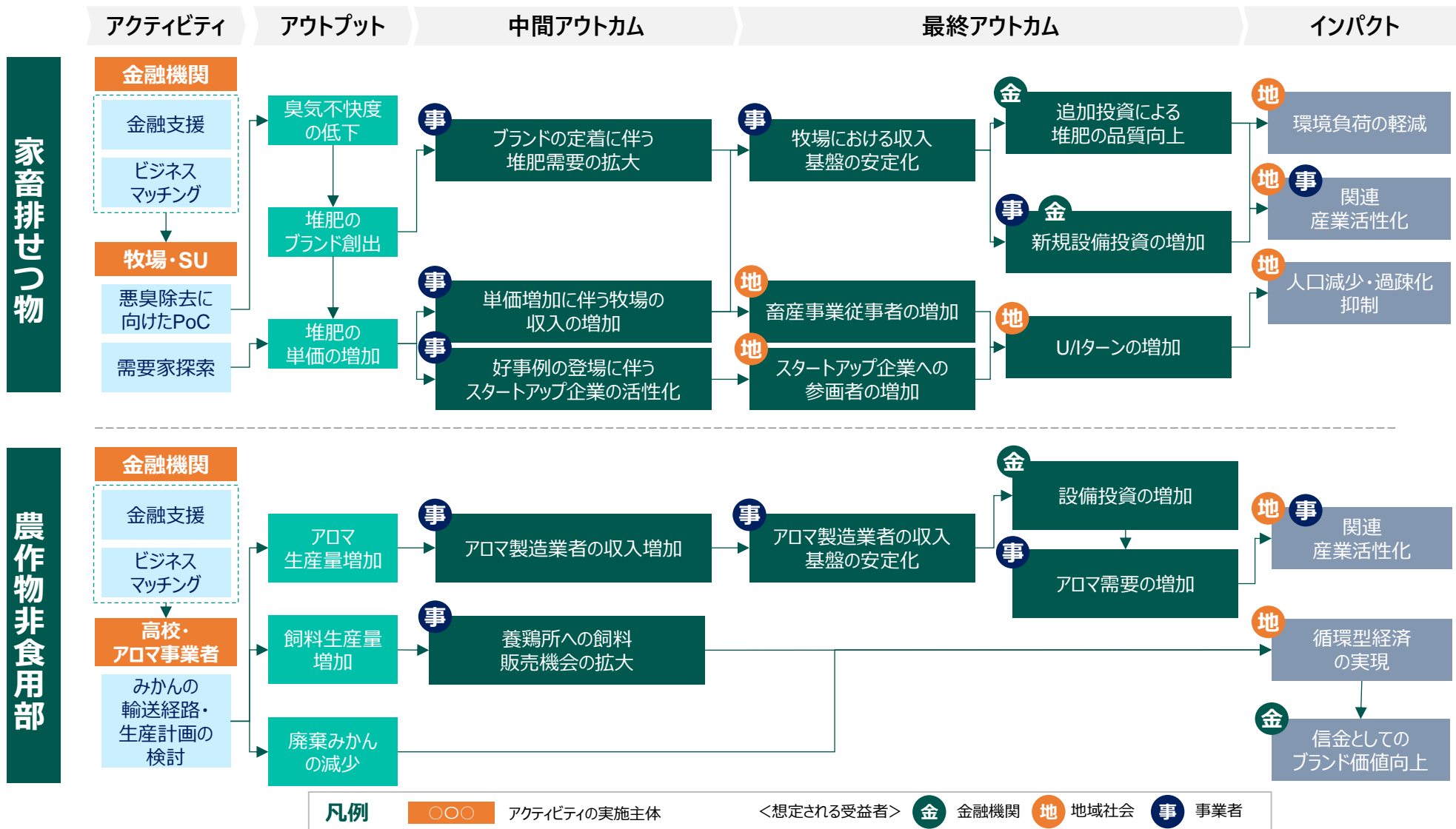
地域資源	仮説検証にかかる評価基準		
	1 地域資源のボリューム	2 地域資源の活用余地	3 金融機関として参入意義・余地
家畜排せつ物 スタートアップ 牧場	<ul style="list-style-type: none"> ヒアリング先の牧場からは、糞尿が年間400~500トン発生している。 	<ul style="list-style-type: none"> 糞尿は100%堆肥として利用されており、うち90%は既に外部提供されている。 ブランド価値の向上に伴う堆肥の高付加価値化路線はあり得る。 	<ul style="list-style-type: none"> 牧場とスタートアップをつなぎ、地域課題の解決（悪臭の除去）やそれに伴う取引先の収入増加につなげることは、信金として重要な役割。
農作物非食用部 アロマ事業者 地元高校	<ul style="list-style-type: none"> ヒアリング先の高校からは、年間1トンの廃棄みかんが発生している。 みかん樹は若木が多く、廃棄木はない。 	<ul style="list-style-type: none"> みかんは廃棄されている状態にあり、活用余地はある。 	<ul style="list-style-type: none"> 浜松磐田信金にとってアロマ事業者重要な取引先であり、高校と当該事業者を結び、事業者の既存ビジネスの高度化を行うことは重要。
建設発生木材 建設業者	<ul style="list-style-type: none"> ヒアリングを実施した建設事業者からは、毎月8立米×5回転分の型枠廃材が発生している。 	<ul style="list-style-type: none"> 発生している型枠廃材は既に地元チップ業者に販売されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 取引先の地域資源は既に活用されている状態であり、金融機関としての参入は難しい状況。
林地残材 自治体	<ul style="list-style-type: none"> 利用見込みのある林地残材は存在する。 	<ul style="list-style-type: none"> 木を森林から搬出するのに大きなコストがかかる状態。 所有者不明の森林もあり、手出しできない森林が存在する。 	<ul style="list-style-type: none"> 左記の課題を金融機関のリソースを活用して解決することは難しいと見られる。

■ 浜松磐田信金との密接度で選んだヒアリング先

■ 地域資源の特性に鑑み、エリアの全体感を把握する観点で選んだヒアリング先

サプライチェーン構築により地域にもたらされるインパクト

- 検討した案がもたらすインパクトを考える上では、ロジックモデルの作成が有効。浜松磐田信用金庫では、「家畜排せつ物」・「農作物非食用部」それぞれのサプライチェーンが実現した場合の地域への効果（インパクト）を以下の通りに整理した。



今後の活動にかかるロードマップの作成

- 構想を実現させるためには、ロードマップを策定するとともに、各活動の担当者を決める必要がある。
- 浜松磐田信用金庫は既に関連プレイヤーとの対話を開始しており、今後については以下のようなロードマップ案を策定した。

サプライチェーンの実現に向けたロードマップ※

活動内容	タイムライン				担当者
	2025年	2026年以降			
家畜排せつ物					
牧場の糞尿を活用した脱臭に関するPoCの実施					牧場・スタートアップ
堆肥の需要家の探索					浜松磐田信金・牧場
ブランドの定着に向けた宣伝活動の実施					浜松磐田信金
更なる需要家の探索					浜松磐田信金・牧場
設備投資の実施					浜松磐田信金
堆肥の品質向上に向けた取組の具体化					浜松磐田信金・牧場
農作物非食用部					
廃棄みかんの輸送計画の策定					高校・アロマ製造業者
アロマ製造計画の策定					アロマ製造業者
飼料の需要家探索					浜松磐田信金・アロマ事業者
アロマの需要家探索					浜松磐田信金・アロマ事業者
設備投資の実施					浜松磐田信金

※ロードマップは現時点の想定であり、今後の協議の結果、修正・変更の可能性がある。

本事業の振り返り及び委員からのアドバイス

本事業の振り返り

【分かった点】

- 静岡県や浜松市が公表しているバイオマス活用計画について地域資源のボリュームと地域資源における活用の現状の観点でヒアリングを行い、「家畜排せつ物」や「農作物非食用部（みかん）」などが効果的に特定され、バイオマスサプライチェーン案が具体化した。また、当金庫が中心となり企業や自治体と連携を強化した結果、持続可能な地域モデルの構築が進化した。一方で、高付加価値化への課題や多様なプレイヤーの協力が重要であり、技術開発や市場開拓の必要性を認識した。今回、循環型社会推進と地域産業の活性化に向けてステップが踏み出され、金融機関としてのブランド価値向上にも貢献できた。

【苦労した点】

- 地域資源選定に向け、洗い出した地域資源のうち、サプライチェーン案の構築・検討に結び付くスクリーニングを行い、実現可能性が低い資源について理由や課題等を整理するのに苦労した。また、多様なプレイヤー（自治体、企業、事業者など）の理解と協力を得るためには、継続的なコミュニケーションと調整が不可欠であった。特に家畜排せつ物の高付加価値化については、現状での利用率が高く、さらなる価値向上への技術的な課題への解決に苦慮した。こうした中、多様な意見や利害を調整しながら実現可能なサプライチェーン案を構築することは大変であったが信用金庫としての使命とやりがいを感じた。

【今後の進め方】

- 本事業を通じて、地域資源の有効活用や循環型経済の推進に一定の成果が見られたが、持続可能な地域社会の実現には更なる取組が必要である。今後は地域住民や企業のESG意識を一層高めるための教育啓発活動を強化し、多様なステークホルダーとの連携を深める。また、技術革新による資源高付加価値化の継続的な推進と、地域の経済活性化を図る施策を継続的に展開する計画である。これにより、持続可能な地域の未来を現実のものとしていきたい。

委員からのアドバイス

- バイオマス資源に着目し、潜在的な活用可能性を高めるバリューチェーンの構築を探る今回のアプローチは、強固なネットワークを活かして地域課題の解決に取り組もうとする浜松磐田信金の課題設定にふさわしいものでした。文献調査等による潜在的な賦存量の把握を踏まえた仮説を立て、取引先企業との密接な対話を通じて検証していくプロセスは、地域資源を糾合するプロセスであり、インパクトの検討等も含めて次につながる学びも多かったのではないのでしょうか。（竹ヶ原座長）
- 既に利活用が行われている資源でも、技術が日々進化する中、より高い経済・環境・社会効果が期待できる展開方法が出てくるかもしれません。未利用・低利用に限定せず、地域の関係者との繋がりを基盤とした地域資源の循環活用最大化モデルづくりに継続的に挑戦してください。（粟野委員）
- 信用金庫が果たすべきこれからの役割は、供給力制約時代を見据えれば、持続可能性に他なりません。バイオマス資源に焦点を絞り、地域資源の洗い出し、サプライチェーン構築を検討した本構想の意義は大きいと思います。これを好循環なモデルとするためには、事業に挑戦する経営者と雇用を増やし、生産性向上を伴う実利経済が必須です。金庫で環境面のみならず、経済、金融面でも確かな実利を生んでいるのかを検証ください。（橋本委員）